

# くす通信

第158号  
2014年4月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

耳鼻咽喉科より

まんせいふくびくろえん

## 1. 今の慢性副鼻腔炎のお話

薬剤科より

## 2. 慢性副鼻腔炎とマクロライド系抗生物質 好酸球性副鼻腔炎とステロイド薬



### 「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。  
また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医学に関する書物のことを言います。  
本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

### 好酸球性副鼻腔炎とステロイド薬

好酸球性副鼻腔炎の薬としては、副腎皮質ステロイド薬(以下、ステロイド薬と略)があります。この薬はアレルギーが関係する病気にはたいへん良く効きますが、飲み方を誤ったり、長期にわたって使用する場合には注意が必要な薬です。薬が効いたと思って勝手に服用を中止すると、症状がひどくなることがあります。また3週間以上にわたって服用する場合は、服用する量にもよるのですが、体重の増加や血圧の上昇の有無、感染症のかかりやすさなどに注意が必要になります。服用上の注意を守りながら続けることが大切なお薬です。最近は飲み薬だけでなく、ステロイド薬の点鼻薬が色々出ており、これらを処方される場合が多くなっています。ステロイド薬の点鼻は、まず鼻をよくかんだ後に薬を使ってください。



好酸球性副鼻腔炎の場合、ステロイド薬のほかに抗アレルギー作用をもつロイコトリエン系薬(オノン®、シングレア®など)が処方されます。これらのお薬は鼻汁や鼻閉などの鼻症状の改善に効果があります。人によってまれに発疹が出ることがあります。また服用し始めて頭痛や嘔気(おう気)がひどい場合は、医師や薬剤師にご相談ください。

薬剤科より



### 慢性副鼻腔炎と マクロライド系抗生物質 好酸球性副鼻腔炎とステロイド薬

薬剤科長 真鍋健一

### 慢性副鼻腔炎とマクロライド系抗生物質

エリスロマイシンやクラリスロマイシンなどのマクロライド系抗生物質を適応量の半分くらいで、数ヶ月服用していると、副鼻腔炎の状態がよくなっていきます。これは、副鼻腔にある上皮細胞や鼻腺細胞に働いて水を出す働きを抑えたり、ムチンと呼ばれる粘液のもとになるものを作らないようにして粘液の過剰分泌を抑制すること、あるいはアレルギー反応と関係するサイトカインと呼ばれる物質の過剰分泌を抑制したりすることによるものです。また最近では粘膜にとって都合のよいグルココルチコイドと呼ばれるものを生み出すとも言われ多方面から炎症状態を改善するとされています。その結果1990年頃から慢性副鼻腔炎に約3ヶ月から6ヶ月を継続の目安としてマクロライド系抗生物質の少量処方が行われるようになりました。当院ではクラリシッド錠200mgがよく用いられ、1日1回で1回に1錠を服用します。胃を悪くする人は少なく、飲みはじめに軟便になる人がいますが、しばらく続けると改善することもあります。蕁麻疹のような発疹がでる場合は医師や薬剤師にご相談ください。



## 国立病院機構熊本医療センター

### 診療科

- 総合医療センター 総合診療科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
- 消化器病センター 消化器内科
- 心臓血管センター 循環器内科、心臓血管外科
- 脳神経センター 脳神経外科、神経内科
- 感覚器センター 眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
- 画像診断・治療センター 放射線科
- 救命救急センター 救急科
- 精神科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 泌尿器科
- 産婦人科
- 歯科口腔外科
- 形成外科
- 麻酔科
- 病理診断科

- 診療時間 8:30～17:00
- 受付時間 8:15～11:00
- 休診日 土・日曜日および祝日

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-15  
 TEL 096 (353) 6501 (代表)  
 FAX 096 (325) 2519  
 H P <http://www.nho-kumamoto.jp/>



## 耳鼻咽喉科

当科では耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般を取り扱っています。開業医の先生方よりご紹介いただき必要により入院・手術を行っています。鼻出血や“めまい”などの耳鼻咽喉科救急疾患にも救命救急センターの医師の協力により対応しています。現在常勤医は一人ですが、大きな頭頸部手術では関連科の医師と協力して行っています。手術は慢性中耳炎などの耳科手術から副鼻腔炎に対する鼻科手術、さらには扁桃摘出術や、口腔・舌疾患から声帯ポリープなどの喉頭疾患に対するレーザー手術、頸部疾患（唾液腺腫瘍、甲状腺腫瘍など）に対する頭頸部外科手術まで幅広く対応しています。悪性疾患の治療も行っていますが、再建手術の必要な進行癌は大学病院を紹介しております。今後は、嚥下改善手術、誤嚥防止手術にも取り組んでいこうと考えています。現在常勤医が一人体制のため、急患は可能な限り受け付けておりますが、都合により受け付けできない場合もあります。

### 耳鼻咽喉科より



## 今の慢性副鼻腔炎のお話

まんせいぶくびくうえん  
**アレルギーが関与？**

耳鼻咽喉科医長 上村尚樹

慢性副鼻腔炎、昔で言う蓄膿症ですが、これは顔の骨にある空洞（副鼻腔）に炎症が出現、膿がたまる病気のことで、たえずのどの後ろに痰がたまる、流れるといった症状（後鼻漏）や、長年罹患するとポリープが生じてきて鼻づまりが出てくる場合があります。以前はこの原因として細菌感染が原因といわれ、以前はいわゆる鼻たれ小僧といわれる子供たちがたくさんいました。彼らも、いわゆる蓄膿症です。近年周囲の衛生環境が整ってくると、また抗菌薬、手術が発達してくると、そういった蓄膿症は減少していきました。しかしそのかわりといっはなんですが、新しい副鼻腔炎が増加傾向にあります。それまでは我々耳鼻科医も、蓄膿症の中には抗菌薬でも効果なく、手術しても再発するのもあるくらいの認識しかなかったのですが、研究が進んでくると、ある共通点がわかってきました。それはというと…

### 共通点

1. 大人になって発症する気管支喘息をもっていること
2. 初発症状で、においがしないということ
3. 採血で血液の中の好酸球という、白血球の一種が増加していること
4. アレルギー性鼻炎や繰り返す中耳炎を合併していること

などです。

(表1)	治療①	治療②	再発したら……
蓄膿症	手術	CAM (※1)	再手術か治療②
好酸球性副鼻腔炎	手術	抗アレルギー薬 (※2) ステロイド点鼻薬	ステロイド内服

※1、クラリスロマイシン：抗菌薬の一種  
 ※2、ロイコトリエン受容体拮抗薬

現在では好酸球性副鼻腔炎といわれ、蓄膿症とは治療法が違ってきます（表1）。治療法に手術がありますが、これは内視鏡を鼻の穴から挿入して鼻腔と副鼻腔を境する骨を除去して一体化させることで鼻の中の換気をよくしてあげて慢性の炎症を抑えようという手術です。しかし、この手術を施しても好酸球性副鼻腔炎は、ほぼ90%が再発します。それなら手術しないほうがいいと思われかもしれませんが、一度手術をしておけば術後の鼻洗いで、洗浄液が副鼻腔の隅々にまで達し、分泌液（この中に再発させるたんぱく質が含まれています）を洗い流すことができるので非常に有効なのです。以前は再発の度に手術を行っていましたが、最近では再発しても再手術することはほとんどなく、ステロイド内服薬で寛解に持ち込むことが可能となってきました。

住居や医学など生活環境が良好となり、細菌による感染症が減少してきた反面、花粉症などアレルギー疾患が増加の一途を辿っており、このような状況の中で好酸球性副鼻腔炎も増加してきたものと思われ、これもアレルギーが関与した副鼻腔炎といえます。

